

# 最も困難を極めし 工事の經驗談

鐵道省建設局  
工事課長 橋本敬之

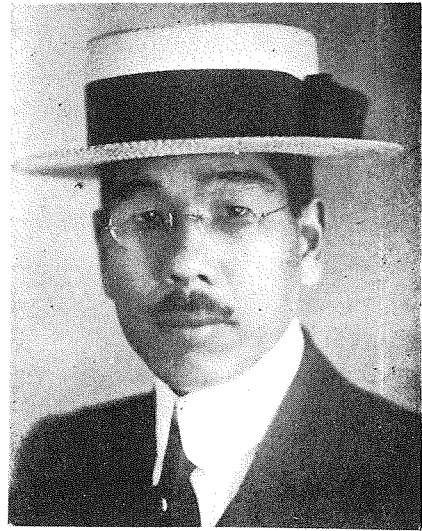
私は壯年時代の十二個年間に山陰線の建設現場に過したのでありますが、其内最も苦んだ經驗を云へば、彼の高架橋で有名な但馬の餘部から俗稱「モ、ウズキ」峠の下を貫く

## 桃觀隧道の工事を

監督した時のことであります。此隧道は長さ一哩十二鎖でありますが、六十六分の一の片勾配で、岩が非常に硬い上に、突込みの側は相當水が出ることを豫想の下に、鑿岩機や唧筒の運轉のために水力電氣を起して、請負人に供給するようになりました。處で其水深であります、丁度隧道の上部百五六十呎の地點を流れて居る西川を云ふ溪流に、最小十四個の水量があることを、たつた一夏の觀測で斷定してしまつた。まだ學校を出てホヤホヤの時でありましたから、

## 地質のことなどは、

よくも調査せずに、躊躇なく之を引いて二百馬力の發電工事を、約10萬圓の費用をかけて栲へ上げた。それで最初の間は隧道内の湧水も余り澤山に出ず、順調に掘り進んで居た處がダンダン夏になるに従て豫定より湧水の状態がひきよくなつて來かゝつたので、少し心配になりだした、折も折坑口から十四五鎖の地點に來たとき、突然斷層が表はれたと思ふ間もなく急に五六個の水が噴出して一方西川



Mr. Y. Hashimoto.  
Imperial Government Dept.  
Construction Division Manager.

鐵道省 工事課長 橋本敬之 氏

の水は丁度それ丈減水してしまつた。其結果は、唧筒を動かす電力は不足して、坑内は見見る内に水づかりになつて、仕事は之れが爲め六ヶ月も手をつけることが出来なかつた

## 勿論私が全責任

を負はなければならぬのだが、幸ひ請負側の鐵道工業合資會社が至極寛大で、何もかも天災と諦めて呉れた爲めやつと自分の首がつかつた譯であつた。其内に湧水期も過ぎ辛うじて元通りの動力を支給することが出来たが、一時の苦心と焦慮は非常な者であつた。

(附記 鐵道工業合資會社は今の鐵道工業株式合資會社なり)

## 戸外の風に 當る若人

○昨年鐵道省から研究員として歐米に出張した人々の中に建設局系の技師が多く何れも工事に對する熱心家であるが、瀧淵實烈君や三好新八君等はトンネル工事で專

門的に研究してゐる人。  
○工務局から上村義夫君が行つたのも軌條研究で名を成したヤ手であるが、他にも若手で元氣な人が大分行つた、然し二十日足らずの航路でも大平洋に出てからは浪に閉古タれた人も

多いらしい、瀧淵君丈は食堂に顔を出さなかつた事は一度もないと云ふから豪氣なもんだ。  
○第一改良の川口利雄君は大河戸博士がわざわざ船の中まで送つて親切に世話をしてみたのは師弟の情も美しく見られた。